



新春 座談会

豊島区長
高際みゆき

大正大学 2年生
近藤咲歩

お茶の水女子大学 2年生
小澤彩希

TCA東京ECO
動物海洋専門学校 2年生
宇佐見海翔



わたしたちが考える つながるまち

座談会が行われたのは国指定重要文化財の「自由学園明日館」。豊島区で大正の歴史を今に伝える建築物です。

豊島区では「ひとが主役」みんなでつくる「としまの未来」を合言葉に、様々なまちづくりを積極的に推進しています。

2024年新春座談会のゲストは「はたちのつどい」の企画検討メンバーを務める3人の若者たち。豊島区をどんなまちにしていきたいかを高際みゆき区長と語り合いました。

安心な暮らしには「居場所」が大切

高際 ●今日は若い皆さんの率直な意見が聞けると思って、楽しみにしていました。よろしくね。

一同 ●よろしくお祈りします！

高際 ●ところでみんなは「すずらんスマイルプロジェクト」って知っている？豊島区は子育て世代への支援や学びの環境づくりには力を入れてきたんだけど、コロナの時に、大変な状況にある10代・20代の女性たちが多いことが明らかになって、10人の女性職員と若い女性を支援するこのプロジェクトを始めました。わかってきたのは、若い女性の「居場所」が少ないことで心が不安になるということ。だから今、居場所づくりにも取り組んでいます。みんなはどう思う？

小澤 ●すごくわかります。私の周りでも大学生になってから自由な時間が増えて、何をしたらよいか、将来どうすればよいか悩んで内向きになってしまう友達は多いですね。

高際 ●小澤さんは学校や自宅以外で居場所はありますか？

小澤 ●地元ですね。小学1年生の時に東日本大震災が起きたんです。下校途中、1人で歩いている時に地震が起きて動けないでいると、近所のおとなの方が「こっち、おいで！」と声をかけてくれて、本当にホッとしたことを覚えています。

高際 ●もしもの時にも人とのつながりが生きてくるよね。最近はどう？

小澤 ●商店街にはよく母と買い物に行きます。お店の方も顔なじみで地域のコミュニティって大切だと思います。

近藤 ●私は通っている大正大学のある巣鴨のカフェでバイトしていますが、秋によさこいのイベントがあったんです。カフェのお客さんも参加していて、「よさこい、楽しいよ！」と話がはずみました。地域のイベントって、人のつながりを感じられていいですね。

高際 ●確かに地域は居場所としても大切だね。宇佐美くんはどう？

宇佐見 ●僕の居場所は公園ですね。最近は南池袋公園やイケ・サンパークも新しくなって、カフェも併設されています。子どもたちだけでなく、おとなや若者もたくさん訪れています。それぞれが笑顔で過ごしている姿を見ると、わくわくしますね。

高際 ●「池袋モナルナス回遊美術館」がまさにそのイメージだね。区内のいろんな所でアートが見られるイベント。マップを持ちながら歩いてめぐっていく。すごく素敵な文化です。

高際 ●「池袋モナルナス回遊美術館」がまさにそのイメージだね。区内のいろんな所でアートが見られるイベント。マップを持ちながら歩いてめぐっていく。すごく素敵な文化です。

ウォークブルでにぎわうまちに

高際 ●昨年の秋に「IKEBUKURO LIVING LOOP」ってイベントがあったんだけど、行ったことある？

宇佐見 ●行きました！取組みが面白い。路上にお店が出たり、アートがたくさん広がっていて、まちがいつもとちがう表情をしていました。

高際 ●そうそう、「まちなかりビング」をテーマに、通りにキッチンカーやいろんなお店が出ておいしいものを販売しているの。訪れた人はベンチや歩道でゆったりと好きなものを食べて過ごせて、隣りあった人同士で会話が生まれたり。こういう居場所もいいよね。

小澤 ●つながるきっかけって、実はまちの中にあるんですね。私は要町駅に置いてある白いピアノを時々弾いています。クラシックからポップスまで演奏されていて、リピーターの方もよく見ます。

高際 ●うれしいなあ。みんなが楽しんでくれているんだね。

宇佐見 ●駅といえば、僕は池袋駅の西と東の通路が課題だと思います。今は、ウイロードとびっくりガード、そして駅の地下通路で東西を行き来できますが、どれも移動のためだけの通路です。そこで「とどまれる通路」があったらいいな、というのが僕のアイデアです。

高際 ●眺めがよくて、そこに居たくなるような場所？

宇佐見 ●最近の公園みたいにカフェがあり、電車の往来を眺めながらのんびり過ごせる空間です。小澤 ●いいアイデアですね！その空間で音楽イベントができればもっと開放的になるかも。

近藤 ●豊島区には素敵なスポットがたくさんあるから、音楽などのイベントで人の流れが広がれば、区全体ににぎわいが生まれますね。

宇佐見 ●それと、アーティストが作品を発表できる場がたくさんあるまちになったら面白いと思います。豊島区には、芸術家が集まって創作活動していた「池袋モナルナス」という歴史があった。まちとしてその歴史を引き継いでいきたいですね。

高際 ●「池袋モナルナス回遊美術館」がまさにそのイメージだね。区内のいろんな所でアートが見られるイベント。マップを持ちながら歩いてめぐっていく。すごく素敵な文化です。

人と人がつながれるまちへ

高際 ●豊島区ではこれまでも高齢者、障害のある方々、子育て世代、外国籍の方々と連携してきましたが、今まで以上に子ども、若者、女性の話をしっかり聞きたいと考えています。特に若者にはどんどん提案してもらい、まちづくりに参画してほしいです。

宇佐見 ●先日中学校を訪れた時、自分が中学生の時に取り組んだ課題を今の生徒たちがやっていたけど、クオリティが高くて、発想も豊か！自分より若い世代の声には耳を傾けなきゃと思いました。

高際 ●20歳でもそう感じるんだね。若者の意見は本当に大切。だって、まちづくりは10年、20年と長い時間がかかるもの。だからこそ若いみんなの意見を取り入れられます。若者が意見を伝えやすくなるにはどうしたらいい？

宇佐見 ●「意見ボックス」を設置するのはどうですか。小・中学生が利用できる施設や区内にある8つの大学のキャンパスに設置したら伝えやすくなると思います。

小澤 ●私は今日話してみても、おとなが若者の意見を聞こうとしてくれているんだから、私達も自分たちから「もっと伝えなきゃ」と思いました。一歩踏み出してみると、いろんな世界があるから、「つながる」ということはこれからも大切にしていきたいです。

高際 ●うれしい意見だね。近藤さんはどう？

近藤 ●「つながる」ことが大切だと思います。女性や若者の意見って通りづらいなと感じていたの、つながりを結び、育むには交流が必要だし、自分の意見を伝えることも大事だなと思いました。

宇佐美 ●つながるためにはどのように動いたらいいですか？

高際 ●私は対面に勝るものはないと思っているんですよ。SNSも大事だけど、やっぱり外に出て行って人とつながることが大切だと思う。それでわくわくしながらどんどん歩いて、また誰かとつながれる。みんなつながり合えるような、そういうまちにしたいな。

2024としま「はたちのつどい」企画検討会とは

成人の日記念式典(はたちのつどい)を自分たちの手で盛り上げるために、公募で集まりました。式典後半では、メンバーが自主制作した映像放映や合唱などを行います。



宇佐見海翔さん



高際みゆき区長

あけましておめでとうございます

年末は久しぶりに帰省されたり、ご家族やご友人との楽しい団らんのひとときをお過ごしになられた方も多かったことと存じます。一方、区民生活の基盤を支え、安全・安心を守る福祉・医療、清掃、警察、消防などの現場ではお正月も関係なく、職務に従事された方が数多くいらっしゃいます。日々、最前線でご尽力されている皆さまに、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年4月に区長に就任して以来、地域や企業・団体の皆さまとともに知恵を絞りながら、「ひと」が主役のまちづくりに、奔走してまいりました。

皆さまにとって、もっと身近な区役所となり、これまで区政に届きにくかった子どもや若者、女性の声を積極的に受け止めたいとはじめた「子どもレター」や「区民による事業提案制度」。私どもの想定を超える、多くのご意見やご提案をいただき、改めて身の引き締まる思いです。

また、新たな公民連携の形である「チームとしま」を通じて、若い方の発想や行動力、パワーに触れ、たくさん刺激をいただきました。こうした皆さまからのご意見やご提案については、新たなチャレンジや業務の改善に結びつけてまいります。

このまちに暮らし、働き、活動する「ひと」を主役に、みんなで「としまの未来」をつくっていく。人と人を、人と区政を、そして、これまでの経験を豊かな未来へしっかりとつなげ、誰も孤立させない、寄り添い合えるわくわくする豊島区としていく。

そのことの重要性を胸に刻み、こころ豊かな「としま新時代」に向けて、今年も、皆さまとともに、一歩ずつ着実に進んでまいります。

区民の皆さまにおかれましては、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

高際 みゆき

すずらんスマイルプロジェクト×大学生企画「としま自分の日」

「区長と“Z世代”のトークセッション」に区内の大学生が参加しました。彼らがそれぞれ思い描く豊島区の未来を紹介しました。



(写真左から順に)

石井里実 ●幅広い世代が融合して、「自分らしくキャリアを切り拓けるまち」になるといいなと思います。ほかの地域の先駆けとなれるように、私も様々な活動に参加し、全力で関わってまいります。

佐久間 春花 ●区では、子どもや若い女性などあらゆる人々を包摂するための取組みが積極的に行われていることがとても印象的なので、より多くの人に広まってほしいなと思います。

村上琴音 ●中学生の時から区を見てきましたが、まちが良い方向にどんどん変わっていていると思います。これからも「住む人たちの生き方の変化に合わせて柔軟に変化していきけるまち」として、あり続けてほしいです。

高木裕人 ●区民と行政の距離感が近い豊島

区だからこそ、若者からお年寄りまで、多様な区民が自分ごととしてまちづくりに参画できる環境をより一層創り上げてほしいです。榎本優介 ●区で生まれ育った人、区に移り住んだ人、区へ通勤・通学をする全ての人にとって豊島区が「故郷」であり続けることで、今よりもっと住みやすく素敵なまちになってほしいです。

牧之内 祐希 ●新しいものやことを積極的に取り入れていることがとても印象的なので、より多くの人に広まってほしいなと思います。

大西リナ ●積極的に区民の意見が反映される雰囲気作りを期待しています！産官学民で連携して、さらに魅力的な地域にできるように、私も貢献していきます。